

## 県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	クラブ連盟
大会名	平成27年度 第69回 関東高等学校女子バスケットボール選手権大会		
期間	平成27年6月6日(土)、7日(日)		
会場	富士北麓公園体育館 鐘山スポーツセンター総合体育館		

### スケジュール

期 日	内 容	場 所
6月5日(金)	審判会議・レクチャー	富士山ステーションホテル会議室
6月6日(土)	A・Bブロック1、2回戦	富士北麓公園体育館
6月7日(日)	A・Bブロック準決・決勝	富士北麓公園体育館

### 会議 講義 内容

まず、安西ブロック長より、今大会への各チームの想い、モチベーションについて話があり、そこまでの準備に対して我々審判員も準備が必要だと感じた。「正しく強いチームが勝つ」ようにコンダクトしなければならない。また、チームも審判員もサヴァイバルであり、各々欲をもってステップアップ、ライセンスアップを目指してほしいと話された。

次に指名審判員の加藤氏より、「ランクアップに際した意識と取組み」としての講義があった。コート内では「ABC(あたり前のことをバカにしないでちゃんとやる)」が、よい判定、よい信頼感に繋がり、よい審判員になる。コート外では、審判技術の向上のため、競技規則やオフィシャルズ・マニュアルの熟知、映像を含めた様々な試合を観ること。語学力の向上として、常に英語に触れること。など、バスケットボールも語学も如何に日常化できるかが重要である。日頃の「良い準備が自信につながる(FIFA referee西村氏)」と締められた。

最後に小坂井氏により、「判定基準」について講義をされた。基準の示し方として、ファウル、ヴァイオレーション問わず、1Qであれ、4Qであれ、そのプレーがその試合で最初に行われた時が肝心である。よって、一瞬たりとも気を抜くことは出来ない。その基準を示すには、シリンダーの概念等ルールを理解がなくてはならない。そして、それを正しく示すにあたって、より良い位置で、プレイヤーが何をしようとしているのかを観て、情報と判断材料を得ることが重要である。ルールの理解、様々な情報からの根拠を基に確かな判定基準をもつことが、試合の円滑な進行や信頼へと繋がる。

担当試合	期 日	平成27年6月6日	女子	Aブロック2回戦
	対戦カード	明秀学園日立 VS 明星学園		主審
	相手審判	井筒 直子 氏 (神奈川)		

ミーティング内容 主任 加藤 誉樹 氏(指名・東京)

試合の序盤から、一方のチームのコーチからのクレームが絶えない試合となってしまった。初めのクレームから対応してはいたものの、警告やテクニカルファウルの処置を取らなかった。クレームをつけられる原因をまず2人で作ってしまったかもしれない。でも、「それ以上は」、「それとこれは別物」という線引きをしなければならなかった。そういった意味では、クレームに対しての判定基準が自身の中で明確にできていなかった。主審として、コーチとの距離感、適切な対応、適切な処置等、様々なことを想定して、備えを持ちたい。また、笛に表わさなくて良いもの、表さなくてはいならないもの、表し方の吟味、工夫が必要だった。

担当試合	期 日	平成27年6月7日	女子	Bブロック準決勝
	対戦カード	土浦日本大学	VS	駒澤大学
	相手審判	R:星野 由貴氏(群馬)	U1:岩本 涼子氏(神奈川)	U2
ミーティング内容		主任 二宮 隆二氏(茨城)		
<p>3人で協力して、1試合運営することが出来ていたが、一つのプレーに対して、より責任のある審判が誰なのかを明確に。信頼感、安心感を与えるためにもそれぞれの責任と協力が更に必要となる。ポストやリバウンド時の争いが、「いつから」「誰が先に」始まったものなのかを捉えるための位置取りと準備をすること。接触の責任や影響の度合いを見誤るケースがあり、往々にしてポジショニングの悪さから、そのようなミスに繋がる。スリーパーソンメカニックでは動ける範囲に限られるため、角度や距離の工夫が必要。判定に関しては土浦日大のオフボールコンタクト、駒澤のシリンダーを外れた手の使い方について、3人の判定基準のすり合わせが必要であった。</p>				
全体の感想				
<p>担当した2試合が共に1点差の苦しい試合だった。試合の始まりから終わりまで、時間の経過に合わせた予測や配慮等、これまで副審としての割当が多く、あまり意識出来ていなかったことを物凄く考えながら運営した。しかし、そのような中で、自分を保つメンタルと様々なことへの準備・予測が一層必要だと痛感した。大会全体として、トップの人ほど、より当たり前のことを大切にしている。なかでも、指名審判員の加藤氏は時計を止める合図、ディレクション等のプレゼンテーションやアイコンタクトを丁寧に徹底されていた。また、パートナーへの声のかけ方や協力の仕方を勉強させて頂いた。</p> <p>この度、山梨県協会の方には細部にわたるまで御配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。地元、所属を大事に今後も精進して参りますので、今後も御指導の程、宜しく願い致します。</p>				